



編集・発行
 日蓮宗 能勢妙見山
 広報部
 〒563-0132
 大阪府豊能郡能勢町野間中
 電話 072-739-0329
 FAX 072-739-2883

七五三詣り祈禱のご案内

11月中、毎日ご祈禱を受け付けます
 ご祈禱を申し込まれたお子様には
 御札・御守り・記念品ならびに絵馬をお渡しします
 お子様自身が願い事を書いた絵馬は、妙見様に捧げて
 3日間ご祈禱したのち、絵馬堂に掲げます

【10月の主な行事】

- ★写経会 13日(日) 11時
- ★清掃の日 15日(火) 11時
- ★月例祈願法要 15日(火) 13時
- ★鶏様月例祭 22日(火) 15時
火伏せ守りの黒札を授与します
- ☆御宝物お風入れ 22日(火)～24日(木)
- ☆七五三詣り祈禱 1日～30日
◎お子様の成長を祈り期間中毎日ご祈禱します
 ご祈禱札並びに御守り・記念品等を贈呈します
- ☆宗祖御会式法要 9日(土)～10日(日)
宗祖日蓮大聖人のご恩に感謝し、報恩法要を
 二日間厳修 御会式桜・おはぎの供養あり
- ★清掃の日 15日(金) 11時
- ★月例祈願法要 15日(金) 13時
- ★鶏様月例祭 22日(金) 15時

◎ご祈禱ご回向等のお申込はFAX・メールでも受け付けています

◎送迎バス奉賛会会員並びに、ご祈禱ご回向のためにご参拝のご信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅から山上までの送迎車を用意しています
 利用ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡をお願いします 但しご希望に添えないこともあります

『世界がぜんたい』

服部憲厚

先日、車をブロック塀に擦ってしまった…。

細い路地の住宅街、ハンドルを左に切ったとたん、車の左側面を「ガリ！」。

その時、運転手の私は無傷だったが、痛くもないのに咄嗟に「痛っ！」と声が出たことと、その後すぐに車を出て、痛々しく傷ついた車の患部を労わり撫でていたことは、我ながら不思議な行為だったと思える。

でもきつとこの感覚は、ドライバーの皆さんならなんとなくわかっていただけるのではないだろうか。

運転は好きだが得意でない私は、大型トラックやバスの運転手、飛行機のパイロットたちがあの巨体を自在に動かし操縦する姿につきも感心する。

それは彼らが巨大な車体と一体になっているからこ

そできる神業であろう。

その日私は、家族から厳重注意をくらい、車の修理費はすごく痛かったが、愛車と一体になったような感覚に浸りながら、ついに私もその領域に達したかと得意げな気持ちになった。

私たちは時に、我が身と別の何かと感覚的に一体になれることがある。

しかしそれは、学習し、習熟しなければ到達できない感覚でもある。

童話作家で、法華経の熱烈な信仰者であった宮沢賢治氏に有名な言葉がある。

世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない

『農民芸術概論綱要』

これは、世界の人々がみんな幸せにというありきたりな平和論ではない。

世界と私が一体にならないければ本当の幸福は訪れない、という賢治の法華経を骨髄とした宗教的な思想が

根底に流れている。

賢治は、その熱烈な信仰を實踐し、日々にお題目を唱えていたそうである。

それは誰もが一声に「世界と私が一体」となれると説かれた行法である。

世界の国々が不穩に擦れ合う今こそ私たちは、賢治のこの言葉の本当の意味を訊ね、お題目を日々唱え習熟しなければならぬ。読書の秋、賢治の作品をおすすめしたい。

尾花おばな

暑い夏だったが、異常気象という言葉は、不安を感じさせるためか、あまり耳にしなかった。でもお彼岸を過ぎても彼岸花はまだ咲かない。

尾花とは穂が動物の尾に似ているので付けられたススキの別名。毎年仲秋のお月様に供えるススキも季節を間違えたのか、尾花と呼ぶには穂がまだふさふさとはしていない。涼しい錦秋が待ち望まれる。

《法華経に学ぶ現代》

純智庵

無量の苦

人にいえない苦しみや背負いきれない悲しみに漬されそつに

身を逼めんに

なつた時

観音妙智の力

合わせて下さい二つの手観音様は知ってます

能く世間の

切ない思いをば

苦を救う

だから 救ってあげたいと慈と悲の両手をは

『観世音菩薩普門品第二十五』

広げます

仏教まめ知識

内証(ないしょう)

一般には内緒と書き「内緒の話だが」などと、内密・秘密のこと指し、表向きにはしない内々のことをいうが、もとは仏教用語で内心の証(さとりの)のことをいう。

自身の心の内に真理を悟ることを内証といい、また他人に説明することができない内心の証をいう。この内証を秘めた言葉を密語という。これは仏が真実を裏に秘めて、衆生を真実へと導くための方便として示された言葉である。

仏が説く真実の教えは、言葉では言い表すことができないものであるが、なんとか方便を用いて理解させようとされるのである。その言葉が密語である。仏の言葉は、その二語三語に甚深の意味が含まれているのである。内に秘めた奥深い言葉ということから秘密のことを「ないしょ」といい内緒と書くようになった。